

■発達障がいをもつ子への対応の心構え

1 発達障がいをもつ子が陥りやすいジレンマ

見た目には障がいがないように見えるため、特性に配慮されない課題が与えられる。



できることが少ない、失敗が多い。



「できる」自信がもてない。



努力する意欲が湧かない。



褒められることが少ない。



人に愛されているという安心感がもてない。

2 基本的な対応

(1) 各自の特性を踏まえた自立を目指す。

- ① 将来の自立に向けて生かせる面を見つけ、伸ばしていく。
- ② 改善していかななくてはならないその子の問題については、組織的（関係者が連携して）、長期的（その子にとって無理のない範囲）に指導に当たる。
- ③ ①、②を効率的に進めていくためにも「個別の教育支援計画」を作成し生かす。

(2) 自己有用感を持たせる。

- ① 本人は自分自身について客観的に見るのを苦手としているので、「良い点」「改善を要する点」を周囲の大人が本人に伝えることで自己評価できるようにする。
- ② 自信を失っている子どもには、「できないことを、できるようにする。」というよりも、まず「できることを認めて伸ばし、自信をもたせる」ことが効果的である。
- ③ 言葉で表現することが苦手なため、誤解を受けてしまうことが多い。そのため、仲介者が本人の意を介して補足する等のかかわりを工夫することが大切になる。

(3) 社会に順応させるためのスキルを身につけさせる。

- ① 規則正しい生活ができるよう目を配る。
(生活のリズムができています。見通しがもてます。)
- ② 家庭生活の中での役割について保護者との連携を生かして取り組む。(家族に感謝される、存在感がもてます。)

(4) かかわる人が過剰にストレスを抱えないようにする。

- 障がいをもつ子とかかわるには相当のエネルギーが必要となる。
そこで分担を決めて組織的にかかわることが大切である。

